

従価税及び従量税によるコメ輸入の関税障壁効果について

—現地調査に基づく小売価格均衡関税率—

笠原 浩三・伊東 正一・佐藤 俊夫

農林業問題研究

第145号

第37巻・第4号

2002年3月

従価税及び従量税によるコメ輸入の関税障壁効果について

— 現地調査に基づく小売価格均衡関税率 —

笠原 浩三 (鳥取大学農学部)

伊東 正一 (鳥取大学農学部)

佐藤 俊夫 (鳥取大学農学部)

1. はじめに

主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律、及び食料、農業、農村に関する基本法に引き続き、中山間地直接所得保障制度の実施等、近年の農業を取り巻く環境は大きく変貌している。さらに昨今ではネギ、椎茸、畳表の関税に対する対抗関税が工業製品の輸出に飛び火しようとしている。国際間の農産物交易の進展に伴って関税制度のあり方に対する問題が大きく注目されるに至っている。

これまで日本政府は、1粒たりともコメの輸入を許さないという生産者団体の強い意向を受けて、ガット(GATT)ウルグアイラウンドの基本姿勢では徹底したコメ輸入自由化反対を貫いてきた。しかし、1998年秋に突然コメ関税化案が議論され、1999年4月からは急速コメの輸入関税制度が導入されるに及んでいる。これは、ミニマムアクセス米を継続して輸入した場合と、関税化を受け入れた場合とを比較して、関税化を受け入れた方がむしろ有利であるとの判断に基づくものであった。勿論その効果は関税制度の中で設定される関税率の水準そのものによって直接影響を受ける。関税率によって設定される関税障壁が効果を生むかどうかはその大きさ次第である。急速導入した輸入関税制度の成否は設定される関税率との関係において検討される。

そこで本報告では、米国西海岸における主要都市で実際に販売されている市場価格の実態調査に基づき、コメ小売価格の均衡化を条件に推計される均衡関税率について分析し、コメ関税制度に基づく関税障壁の効果について考察することとした。

2. 短粒種ジャポニカ米の調査対象都市と流通概要

今回の米国におけるジャポニカ米の調査地はカリフォルニア州のロスアンゼルス、アリゾナ州のフェニックス、フラッグスタッフ、及び一部ワシントン州のシアトルの4都市である。ロスアンゼルスは米国最大の短粒種ジャポニカ米の生産地帯であるサクラメントに隣

接する穀倉地帯の南端にあり、日系人の多いロスアンゼルスはジャポニカ米の需要も多く、コメの流通量も多い。一方、アリゾナ州はサクラメントの穀倉地帯の南端と近い距離にはあるが、ロッキー山脈の南方に位置し、砂利砂漠に覆われた乾燥地帯で米の生産は殆ど行われていない。アリゾナ州はカリフォルニア州に隣接はしているものの、コメの流通においてはロスアンゼルスと好対照的な地域といえる。

3州における小売価格調査対象都市及び対象店舗

- ①ロスアンゼルス市：・MITUWA (ロスアンゼルス市内の以前の YAOHAN 店) 大型店舗
・ENBUN MARKET (LITTLE 東京に隣接) 小型店舗
- ②アリゾナ州の主要都市における調査対象店舗
・BASHAS' 店 (KINGMAN - 国道40号線沿) 小型店舗
・FRED NEYER 店 (PHOENIX - 国道10号線と17号線の交差する付近) 小型店舗
・FOOD CITY 店 (PHOENIX - 国道10号線沿) 小型店舗
・SAFE WAY 店 (FLAGSTAFF - 180号線と国道40号線の交差する付近) 大型店舗
- ③ワシントン州シアトル市
・SAFE WAY 店 (CIATL 市郊外国道5号線沿) 大型店舗

これらの調査地におけるコメ小売価格に関する現地調査結果をまとめると、表1のとおりである。Aランク米、Bランク米は品質による区分で、前者は品質的に日本国産米と遜色ない食味を有する。また、取扱銘柄も多く、小売価格にも大きな価格幅が見られる。特に nishiki、及び gold tamaki についてはかなり高く、一般的な shirakiku、botan などと比較しておよそ2倍に近い価格で販売されている。

3. 従価税と従量税の関係

一般に従量税の場合は CIF 価格の値に関係なく数

表1 ロスアンゼルス市内コメ小売価格

(単位: \$)

販売店	ENBUN MARKET	MITUWA
(LB)	22.05	22.05
(kg)	10.0	10.0
B ラ ン ク 米		
shirakiku	7.37 *	8.81 *
botan	7.48 *	10.46
hikari	10.68	11.01
new rose	10.46	10.46
tamaki	13.21	—
akita otome	13.21	—
kokuhonomura	11.67	—
A ラ ン ク 米		
nishiki	11.56	14.31 *
kokuho koda	14.31 *	—
gold tamaki	18.72 *	20.93 *
平均価格	11.86	12.66

注) *印は均衡関税率算定に使用した価格である。

量に応じて一定額の関税が課されることとなる。これに対して、従価税の場合は CIF 価格に応じて一定率で課される。陸揚げ価格は、生産費、輸送費、あるいは品質などの相違によって異なるため、同一銘柄でも CIF 価格高低に応じて関税額が異なる。このような CIF 価格と従量税・従価税の関係を示したものが図1である。

すなわち、横軸は CIF 価格を表し、縦軸は CIF 価格に従量税または、従価税を課した場合の日本国内流通価格を示している。従価税と従量税の交点 A は、従量税と従価税の分岐点となり、この分岐点より左の CIF 価格の領域では従価税が有利になり、右の領域では従量税が有利になることを示すこととなる。

輸入コメについては日本国内流通価格は課税後の価格を示す。従って輸入コメの流通価格が日本産米の国内流通価格よりも低ければ、関税を支払っても日本産

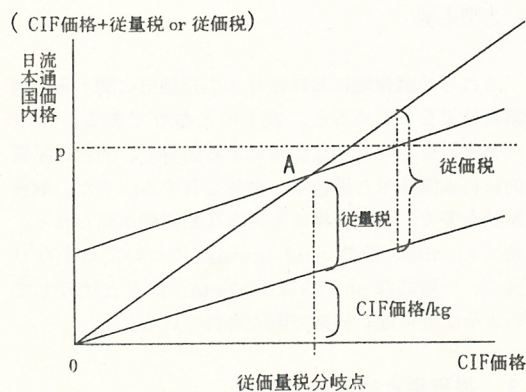


図1 従価税と従量税の関係

米と競争できることとなり、関税障壁を乗り越えて輸入される可能性を示すこととなる。しかし、課税後の価格がこの国内流通価格よりも高くなるならば関税障壁の効果が現れ輸入が採算に合わなくなり、関税障壁効果が生まれることとなる。

4. 小売価格均衡条件下の関税率推計モデル試算

表2は米国における販売諸経費、海上輸送及びそれに伴う諸経費を積み上げ式で加算し、これを日本国内小売価格に均衡化させた場合の算定過程をとりまとめたものである。これより、日米間の小売価格均衡を条件とした場合の均衡関税率が求められる。

すなわち均衡関税率は最終的に次の算出式によることとなる。

$$\textcircled{C} \text{ 日米間の小売価格均衡関税率モデル}$$

$$\beta = Y - 93.998839X - 115.3077t - 832$$

ただし、 β は均衡関税率 (単位: 円/10 kg)

X 米国現地小売末端価格 (単位: \$/10 kg)

Y は日本国内小売末端価格 (単位: 円/10 kg)

t は米国からの海上輸送費 (単位: \$/10 kg)

である。この算出式によれば輸出入両国間の末端小売価格と輸入相手国からの海上輸送費を与えてやると、両国内の小売価格の均衡を条件とする関税率が求められることとなる。

いま例として、米国産の shirakiku と日本産米の鳥取こしひかりを均衡させた場合について検討する。

米国産米をロスアンゼルス ENBUN MARKET 店で販売されている shirakiku とすると、その小売価格は 10 kg 当たり 7.37 ドルとなり、一方、日本産米を鳥取市内の量販店における鳥取こしひかりとすると、小売価格は 10 kg 当たり 3480 円となる¹⁾。これらを上式に代入すると次のようになる。ただし、海上輸送費を 0.5 とする²⁾。

$$\begin{aligned} \beta &= Y - 93.998839X - 115.3077t - 832 \\ &= 3480 - 93.998839 \times 7.37 - 115.3077 \times 0.5 - 832 \\ &= 1897.57 \text{ (円/10 kg)} \end{aligned}$$

すなわち、従量税による均衡関税額は 1897.57 (円/10 kg) となる。

これらの関係を図示したものが図2である。すなわち、図2は図1に具体的な試算結果による実数値を当てはめたものであり、縦軸は鳥取こしひかりの日本国内流通価格であり、横軸は米国産 shirakiku の日本

陸揚げ価格 (CIF 価格) をとったものである。表 2 から CIF 価格は 750.42 円/10 kg で、これに対する従量課税は 3511.7 円となり、これに日本国内流通経費を加えたものが shirakiku の国内流通価格となる。その価格は 5094 円/10 kg である。

一方、鳥取こしひかりの国内流通価格は 3480 円/10 kg であるから、この場合、shirakiku の課税後の小

売価格は鳥取こしひかりの小売価格を上回ることになるため、関税障壁を乗り越えて輸入されることはない。

しかし関税額が低下していくと、shirakiku の関税後の国内流通価格 5094 円/10 kg も低くなる。関税額が低くなり、shirakiku の関税後の国内流通価格が鳥取こしひかりの小売価格 3480 円/10 kg と均衡した場合には、その均衡関税率は従量税で 1897.57 円/

表 2 米国産米と日本産米小売価格均衡に伴う均衡関税率計算モデル

項 目	計 算 式	shirakiku の具体的 推定値(10kg当たり)
(a) 米国内末端小売価格 (\$)	X	7.37
(b) 自国内販売手数料 (\$) (小売価格の 19.48 %)	0.1848X	1.361976
(c) 推定 FOB 価格 (a-b) (\$)	0.8152X	6.008024
(d) 海上輸送費 (\$)	t	0.5
(e) 海上保険料 (\$) {(c+d) * 0.006}	0.0048912X + 0.006t	0.039048
(f) 金利 (\$) {(c+d+e) * 0.012}	0.0098410X + 0.012072t	0.078564
(g) 輸入業者手数料 (\$) {(c+d+e) * 0.03}	0.0246027X + 0.030180t	0.196412
(h) CIF 価格 (\$) {(c+d+e+f+g)}	0.8545349X + 1.048252t	6.822048
(i) 円建て CIF 価格 (¥) (110/1 ドル)	93.998839X + 115.3077t	750.4253
(j) 従量税による関税 351.17 円/kg : β	3511.7	3511.7
(k) 従量税に変換した関税率% : α	3511.7 / (93.998839X + 115.3077t)	467.9613
(l) 通関手数料 (¥) (7,000/トン)	70	70
(m) 倉庫保管料 (¥) (600 円/トン 10 * 20 日)	12	12
(n) 倉庫渡し価格 (¥) (i+j+l+m)	CIF + β + 82	4344.1253
(o) 国内販売手数料 (¥) (750/10kg)	750	750
(p) 末端小売価格 (¥) (n+o)	CIF + β + 832	5094.12
(q) 調査小売価格 (¥)	Y	

注 1) 具体的試算に使用した小売価格はロスアンゼルス の ENBUN MARKET 店の shirakiku である。

2) 海上輸送費は、米国西部カルフォルニア州からの輸送を想定 : t = 0.50 ドル/10 kg。為替レートは 1 ドル = 110 円。

表 3 日米小売均衡価格に伴う均衡関税率推計

区 分	2001 年調査小売価格			2000 年調査小売価格			
		鳥取こしひかり	三重こしひかり	きらら 397	新潟こしひかり	魚沼産米	
ENBUN MARKET	shirakiku	α	467.96	467.96	467.96	467.96	
		β *	189.76	237.76	139.76	279.76	557.76
	botan	α *	252.86	316.83	186.24	372.80	743.26
		α	461.60	461.60	461.60	461.60	461.60
		β *	188.72	236.72	138.72	278.72	556.72
		α *	248.07	311.16	182.34	366.37	731.79
hikari	α	330.81	330.81	330.81	330.81	330.81	
	β *	158.64	206.64	108.64	248.64	526.64	
	α *	149.44	194.66	102.34	234.22	496.10	
	α	193.24	193.24	193.24	193.24	193.24	
gold tamaki	β *	83.07	131.07	33.07	173.07	451.07	
	α *	45.71	72.12	18.20	95.23	248.21	
MITUWA	hikari	α	321.41	321.41	321.41	321.41	321.41
		β *	155.54	203.54	100.54	245.54	523.54
	nishiki	α *	142.36	186.30	92.60	224.73	479.18
		α	250.34	250.34	250.34	250.34	250.34
		β *	124.52	172.52	74.52	214.52	492.52
		α *	88.77	122.99	53.12	152.92	351.11
	gold tamaki	α	173.42	173.42	173.42	173.42	173.42
		β *	62.30	110.30	12.30	152.30	430.30
	α *	30.76	54.46	6.07	75.21	212.49	

注) α は従量税 351.17 円/kg を従量税に変換した関税率%、 β * は均衡式に基づく従量税表示の均衡関税、 α * は均衡従量税 β * を従量税に変換した場合の関税率を表す。

10 kgとなる。すなわち、従量税で 1897.57 円/10 kg が課せられると、鳥取こしひかりの小売価格と輸入米の小売価格が均衡することとなる。

さて、これらの従量税に依る均衡関税を従価税に変換するとどのようになるであろうか。

(イ) 日本産鳥取こしひかり小売価格 Y(¥) : $Y=3480$

(ロ) 従量税の場合の均衡関税 β^* (円/10kg) :

$$\beta^* = Y - 93.998839X - 115.3077t - 832 = 1897.57$$

(ハ) 従価税に変換した均衡関税率 α^* (%) :

$$\alpha^* = \beta^* / (93.998839X + 115.3077t) = 252.86$$

すなわち、小売価格を均衡させた場合の均衡関税率

を従価税で表すと、252.86 % ということになる。

かくして、同様に日米の各銘柄間で小売価格を均衡化させた場合の均衡関税率を従量税、及び従価税で試算することができる。表3はこれを集約したものである。

5. 関税率の変化に伴う関税障壁への影響

1) 従量関税が引き下げられた場合の関税障壁

ここでは関税率が年次毎に引き下げられた場合の関税障壁の効果について検討する。現行の関税制度では初年度 1999 年の関税率は 1 kg 当たり 351.17 円であったが、図3は今後当初の見通しのように年々 2.5 % ずつ引き下げられ 10 年後の 240.6、20 年後の 141.1 % に引き下がった場合には均衡関税率がどのように変化するかをとりまとめたものである。

同図で右上がりの直線が均衡関税率グラフである。すなわち、この直線より左上に位置する均衡点が、初年度関税率 $\beta = 351.17$ (円/kg) のもとでも関税障壁を乗り越えて輸入される可能性があることを示すものとなる。これによると、魚沼産米との均衡化では全ての米国产米が関税障壁を乗り越える領域にあり、それ以外の日本産米では関税障壁の効果認められる領域にあることを確認できる。

しかし、関税率が引き下がり、2010 年時点の $\beta = 240.6$ (円/kg) のもとでは新潟こしひかり、三重こしひかりは、比較的安い米国产米との均衡化を想定す

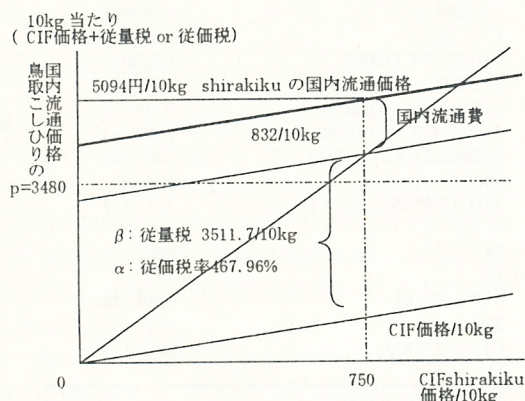


図2 従量課税後の小売価格の関係

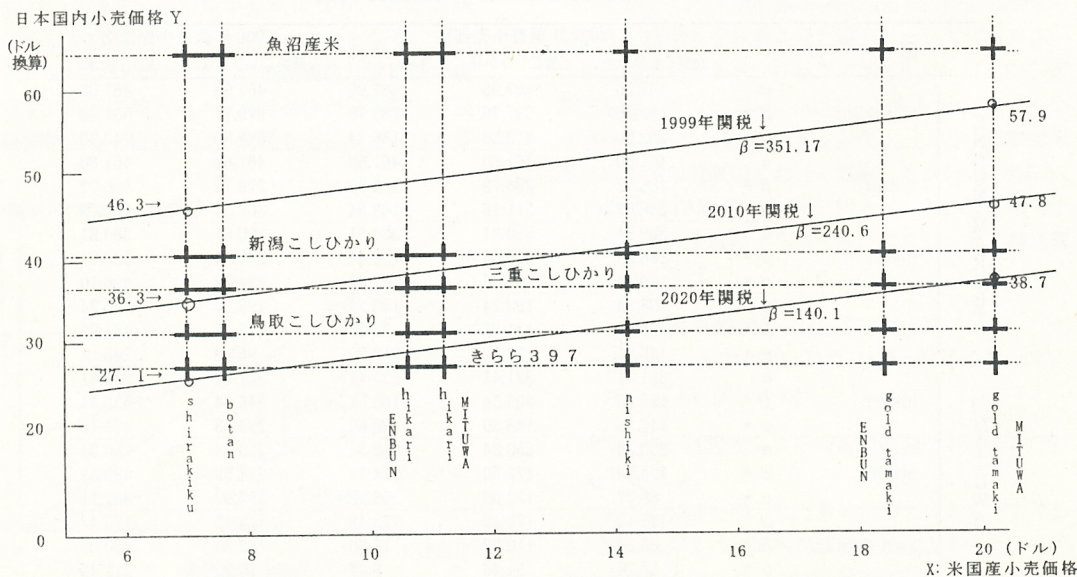


図3 関税率の変化に伴う均衡関税率グラフと関税障壁効果領域 (均衡関税率グラフの右下領域)

れば関税障壁を乗り越える可能性も懸念されるが、相対的に高い gold tamaki 米などと均衡させた場合には、依然均衡関税率グラフの右下の領域に位置し、関税障壁の効果が認められるものである。

さらにその傾向は、2020年時点頃まで維持されるが、鳥取こしひかりが安い米国産米の shirakiku、botan、などと均衡化させた場合に、新たに関税障壁を乗り越える条件に近づくことが想定される。しかし、安価なきらら397は依然均衡関税率直線の右下領域に位置し、関税障壁の効果が認められるものである。

2) 従価税による関税障壁効果の検討

これまでは従量関税による関税障壁の効果について検討してきたが、ここでは従量税を従価税に変換した場合の均衡関税率の影響について考察することとする。従量税の場合は価格に関係なくkg当たり351.17円の関税が賦課されることになるが、従価税の場合は、価額に対して賦課されることになるから、価格水準によって賦課される関税額は異なってくる。図4は表3に算定された α^* 、すなわち、均衡従量関税を従価税に変換した均衡従価税であるが、これを魚沼産米と、新潟こしひかり、及びきらら397に沿って整理・図示したものである。

これらの均衡従価税が関税障壁を越えるかどうかは、従量関税351.17円/kgを米国産米の各銘柄毎に変換される351.17円従価税との比較によって判定される。図4の右側縦軸はその従量税を従価税に変換した尺度

を表している。

これによると shirakiku の場合、魚沼産との均衡従価税は表3で確認したように743.26%と高い値を示すが、351.17円を従価税に変換した場合は467.96%となるため、従価税で判断しても shirakiku は関税障壁を乗り越えて輸入される可能性が認められる。さらに gold tamaki (MITUWA) の場合も351.17円を従価税に変換すると関税率が173.42%であるから、同じく関税障壁を乗り越えて輸入されるおそれが認められる。しかしその差は僅かである。

一方これに対して、新潟こしひかりの場合には全ての銘柄の均衡関税が変換従価税を下回り、関税障壁を乗り越える状況は生じないものと思われる。さらに比較的安価なきらら397の場合には一層その傾向が強くなることが認められる。

7. 要約

本報告ではまず、米国西海岸カリフォルニア州ロスアンゼルス市内におけるジャポニカ米の流通・市場価格調査の結果をとりまとめ、さらに明らかにされた小売価格に基づいて、わが国のコメ小売価格との均衡化を条件に算定される均衡関税率を推計し、関税障壁の効果について検討した。

その結果明らかになった点を要約すると以下のようである。

- ①カリフォルニア州、及び、アリゾナ州のジャポニ

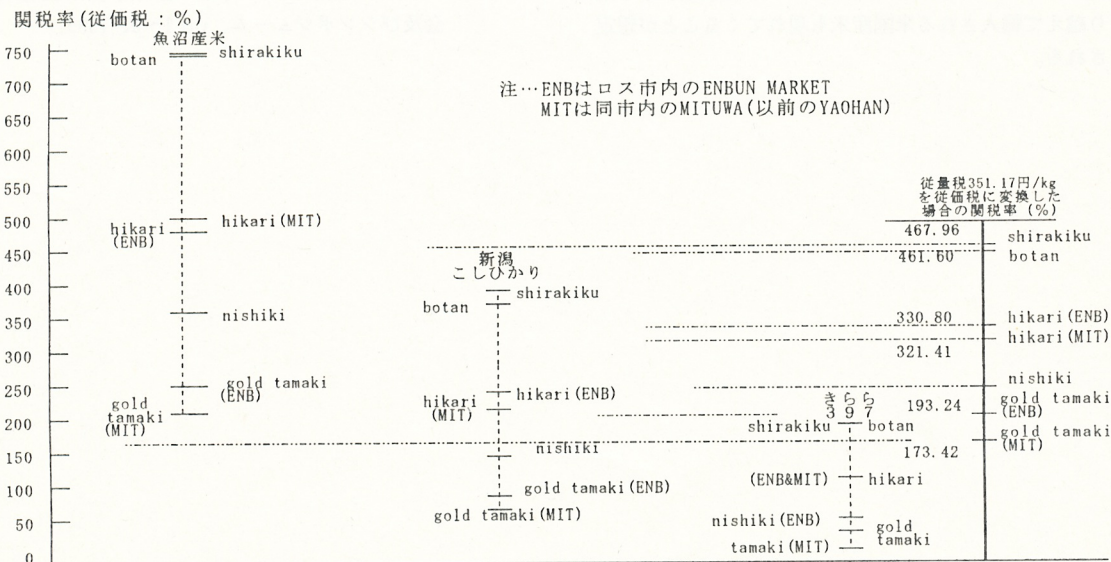


図4 小売価格均衡条件下の従価税による関税障壁効果

か米の小売市場価格を整理すると、短粒種を主体とする上質米と中粒種を主体とする各種銘柄米との間にはかなり明確な格差が認められる。さらに、地域によって若干の傾向の違いがあるものの販売店の規模間にも格差が存在する。従って均衡関税率の算定には特に平均化及び販売単位を調整することなく素小売価格に基づいて分析を試みた。

その結果、小売価格均衡関税率の分析からは次のことが明らかになった。

②小売価格均衡化関税率推計モデルによる均衡関税率の計測の結果、gold tamahi 米、及び nishiki 米などの比較的高品質の A ランクに区分されるコメは価格も高いことから、わが国の魚沼産米を除く一般的なコメと均衡化させても、現行制度の初年度関税率 351.17 円/kg の下では関税障壁を乗り越えて輸入することはないものと思われる。しかし魚沼産米との競争については、品質が同等ということであれば、関税を支払ってもなおわが国国内で高価格販売が可能であり、関税障壁を乗り越えて輸入されることが想定される。しかし現実的には魚沼産米と価格面では競争ができて、食味などの品質の面では対等に競争は困難と思われる。

③しかし、B ランクに属する shirakiku、botan、hikari などの一般的に安い小売価格米については、初年度の関税率の下でも輸入が採算に合う状態も生まれてくる。特に関税率が年々引き下げられていった場合には、2010 年頃に至るとそのような関税障壁を乗り越えて輸入される米国产米も現れてくることが想定される。

最後に本報告では、比較される日米間のコメは価格のみの観点から関税障壁効果を検討したものであり、品質には差が無く、同一であることを暗黙に仮定していることに注意する必要があることを指摘しておきたい。

注 1) 鳥取市内におけるコメ小売価格は次のとおりであった。

2001年1月調査	
鳥取コシヒカリ	3480 (円/10 kg)
きらら397	2980
2000年3月調査	
新潟コシヒカリ	4380 (円/10 kg)
魚沼産米	7160

2) 米国西海岸から日本への海上輸送費は、参考文献 [2、3、4] による試算例に基づいている。

参考文献

- [1] 伊東正一：世界のジャポニカ米—その現状と潜在的生産能力、全国食糧振興会、pp.22~31、1994。
- [2] 伊東正一：コメ「関税化」分析—輸入の可能性と食料安全保障—、農林業問題研究、第35巻第4号、pp.13~18、2000。
- [3] 世界のジャポニカ米研究グループ（代表伊東正一）：第8回ジャポニカ米・国際学術研究報告会及びシンポジウム、pp.100~115、2000。
- [4] 世界のジャポニカ米研究グループ（代表伊東正一）：第7回ジャポニカ米・国際学術研究報告会及びシンポジウム、pp.1~9、1999。